

所報

佐賀県
教育センター

No.20



ミネルバ通信

平成13年9月21日

C O N T E N T S

特集.....	2 ~ 3
「総合的な学習の時間」の実施に向けて【高等学校編】 ～「総合的な学習の時間」の実践の紹介～	
指導と評価シリーズ.....	4 ~ 9
・小学校道徳『実感・納得・本音』にはたらきかける道徳学習	
・中学校社会科「生徒の意欲を高める社会科選択学習」	
・高等学校国語科「生徒の読みを揺さぶる評論文教材の指導のために」	
校内研究.....	10
・佐賀市立勤興小学校	・佐賀市立鍋島中学校
佐賀再発見シリーズ.....	11
佐賀県の地衣類	
インフォメーション.....	12
・教育講演会案内	・教育交流会 - 実践のとびら21 -
・スーパーアドバイザー	・マルチメディア教材募集

巻頭言

時代はひとり でにくるもの ではない

佐賀県教育センター副所長
松尾 雅則



京都の小学校は、明治2年（1869年）、学制発布にさきだち町衆（地域住民）によってつくられたそうです。

その維持管理のためには、町衆がお金を出し合い、竈（かまど）金を徴収し小学校会社をつくり、地元有志の寄付金と合わせて運用し生まれた利子を充てたとあります。都大路の碁盤の目のような番組の一つひとつに、学区自治の74もの番組小学校を誕生させた京都市民の小学校にかけた期待の大きさと労苦を感じます。また小学校には、警察交番（学区治安のため）、小学校火消（自主防災のため学校に望火楼を作り消防団器具庫が設置された）、小学校役場（戸籍や租税をはじめとする行政事務）が置かれていたといえます。

さて、現在、学校は町衆とともにあるのでしょうか？ 学校は町衆と学校教育の理想を共有してきたのでしょうか？ 「学校教育校門を出ず」と揶揄されて久しいのですが。

今、根本打開のために教育は大きく舵を切り始めました。学校は現在、指導のフィールドを学校の敷地から地域へと広げ、指導の主体を単独教師から複数教師（教師陣）へ、学校教師から地域人材へと展開し、教育の受注者としての自覚を深めているところでもあります。幼稚園と保育園の一元化、小学校と福祉施設の併設、学校での学童保育など、「学校の管轄ではない」とは言うてはられません。教育業界にも例外なく再編成・改革の波がおしよせてきているのです。明治維新期の番組小学校への回帰を見る思いがします。

週5日制も含め教育の軸が大きく動きますが、東京遷都の打撃にひしがれることなく次代に目を向けた京都市民のように、苦難にもめげず、将来に向かって市民、住民を育てあげる学校をつくりあげなくてはなりません。そして、京都の小学校が「明治維新の住民自治の象徴であった」と評されたように、平成の教育改革は、100年後に、後世が評するところとなるでしょう。

竈金とは、小学校維持管理のための市民の負担金「一竈ヲ構へ朝夕ノ煙ヲおこした起ルモノハ皆半季一分ノ 出金ト申事也」

特集：「総合的な学習の時間」の実施に向けて〔高等学校編〕

- 「総合的な学習の時間」の実践の紹介 - ～特色ある学校づくりとどうリンクさせるか？～

平成13年度「総合的な学習」研究部会 高等学校研究委員会

現状と課題

小・中学校に比べて遅れ気味であった高等学校の「総合的な学習の時間」への取組も、本格的な動きが出始めています。高等学校の場合、普通高校、専門高校、総合学科に大別されますが、それぞれが独自性をもって「特色ある学校づくり」を意識した教育活動を構築しようとしているようです。

高等学校学習指導要領には、学習活動として、小・中学校で示されている「横断的・総合的な課題」「児童生徒の興味・関心に基づく課題」に加え、「知識や技術の深化、総合化を図る学習活動」と「自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動」が例示されています。

平成12年10月に、特殊教育諸学校を除く県内すべての県立高等学校に対し、「総合的な学習の時間」についてのアンケート調査を行いました。

実施したい内容については、普通高校、専門高校、総合学科いずれも「課題研究」的なものが最も多いという結果が得られました。ただし専門高校が考えているのは、従来から行ってきた専門教科「課題研究」による代替のようです。その場合、「総合的な学習の時間」のねらいと、専門教科としての「課題研究」の目標がいずれも達成できるものになる必要があります。2番目に多かったのは「進路学習」です。普通高校は大学進学を視野に入れた進路学習で、職業研究（職場訪問）、大学研究等を組み合わせています。専門高校、総合学科は職業人としての自覚を目標に、就業体験（インターンシップ）を組み合わせています。以上2つの内容を核として、地域学習、ボランティア、国際理解、異文化理解、環境等を組み合わせ、学習指導要領が示しているねらいを達成し、それぞれの学校の独自性を打ち出そうとしていることがアンケート結果から分かりました。

教育センターの「総合的な学習」研究部会では、平成11年度から研究を行い、すでに研究紀要24号・25号別冊で研究成果を報告しています。今回、25号別冊で報告した高等学校の取組について、要点をまとめました。

実践事例 1 太良高等学校

地域の強い要望で開校した創立25年目の若い学校で、平成14年度からは他に先駆けて連携型の中高一貫教育が始まる。「総合的な学習の時間」は地域密着型で、「福祉・健康」をテーマに、太良町役場や社会福祉協議会と連携を取り実践した。

1 学 年 1年生

2 テ ー マ 「福祉・健康教育分野」を軸とした取組

3 活動内容

(1) 自分の体を知る

健康診断、身体測定等を基に、健康状態をチェックし、自分の体を見直す。

(2) 食事について考える

朝食の大切さを考えさせる目的で、全校で「朝食キャンペーン」を行い、「太良高で朝食を！」を実施した。地域の協力を得て、朝食を見直す機会となった。

(3) たばこについて考える

地域のボランティアや専門の講師とフリートークングを行った。教師が入らないことで、生徒の様々な意見を引き出すことができた。

(4) 福祉・保育の姿にふれる

介護老人保健施設、保育園での体験学習。高齢者や園児に接することで、福祉・保育の仕事がいかなるものかを自ら体験し考える機会となった。

(5) 講演会（性・エイズ・薬物）

思春期である生徒たちにとって身近な話題である性やエイズ等について、専門家の話を聞き理解を深める。

(6) 聴覚障害者の生き方を学ぶ（映画鑑賞）

映画鑑賞により聴覚障害者の生き方に学び、社会の中で頑張る人の姿について学ぶ。

4 今後の課題

- ・年間計画の中で、活動内容を精選してじっくり時間をかけ取り組む。
- ・学習活動をきちんと記録させ、次の学習に生かす。
- ・今まで以上に、生徒自らで構築する学習形態を模索する。
- ・普段から地域との連携を密にし、また学習した内容をインターネット等を利用して地域に発信していく。

実践事例 ② 有田工業高等学校

「ものづくりによる人づくり」を教育方針とし、県立学校として100年の歴史と伝統を誇る地域に密着した学校である。「総合的な学習の時間」では、従来より高い評価を得てきた「課題研究」による代替を中心にして学習活動を組み立てた。

1 学 年 3 年 生

2 テ ー マ 「課題研究」による代替措置

3 活動内容（セラミック科を例として）

生徒の意見・希望を取り入れ、セラミックスにかかわる4分野からテーマ設定を行う。

課題研究実施分野

- ①ファインセラミックスの試作研究 ②ガラスの試作研究
③釉薬の試作研究 ④陶磁器の試作研究

課題研究進行計画表

4月 ～ 5月上	課題研究の導入 ・生徒の希望調査を基に、研究分野、グループ、テーマを決定。 ・予備調査・研究を行い、実施計画を立案。
5月下 ～ 7月上	調査研究活動 ・文献調査、現場調査、予備実験等を行う。
7月下 ～ 12月上	研究活動 ・研究、実験、作品制作等の自主的な学習活動を行う。 ・随時指導担当者の下で検討会を行い、見直しをする。
12月下 ～ 1月上	研究のまとめと発表準備 ・卒業作品展生徒準備委員会を作り、役割分担を決める。 ・卒業研究集の原稿作りに取り掛かる。
1月下	卒業作品展の実施 ・九州陶磁文化館において、卒業作品展を実施。
2月上	研究集発行 ・卒業研究集の印刷製本を印刷所に依頼。
2月中	評価 ・学科会議で一定の基準を基に評価を行う。

4 今後の課題

- ・地域との連携をさらに深める。
- ・テーマの多様化に伴い、校内施設・設備の充実を図る。
- ・指導者の研修を深め、学校をあげて支援する体制を確立する。
- ・全ての生徒が、興味・関心を持って取り組めるよう、更なる工夫と研究が必要である。

実践事例 ③ 神埼清明高等学校

大正2年に創立以来農業高校として地域に貢献してきたが、多様化した生徒の希望に対応するため、平成8年度に総合学科としてスタートした。

「総合的な学習の時間」は1、2年で各1単位、3年で2単位（課題研究で代替）を設け、生活体験、自然体験、福祉体験、国際理解体験、就業体験等のプログラムを予定している。今回はその中の就業体験について紹介する。

1 学 年 2 年 生

2 テ ー マ 「就業体験」を取り入れた取組

3 活動内容

企業訪問	2年担任団を中心に企業に打診。
生徒へのアンケート	企業名は挙げずに職業分野の希望を調査。補習や部活の生徒以外は全員参加を原則。
企業への割り振り	生徒の希望を基に企業に割り振る。
連絡調整	生徒に連絡し無理があるもののみ調整。
企業との連絡打合せ	可能ならば、生徒を連れて各企業に打合せに行く。事前に心構えやマナーを指導する。
就業体験実施	現地集合・解散で実施。欠席・遅刻の連絡に注意。毎日日誌を記入。期間中は2年担任団で各企業を巡回する。
礼状発送	各企業に就業体験の感想、お礼状、体験発表会の案内状を発送。
発表会・反省会	体験発表会を実施。発表会終了後、企業を交えて反省会を行う。

4 今後の課題

就業体験についての反省

- ・企業側と学校側に就業体験に対する認識の違いがある。
 - ・生徒の自主的な活動を目指しているが、全体としては学校主導であり、改善する必要がある。
 - ・夏休みに就業体験をすることの適否や実施期間について検討する。
 - ・効果的に就業体験を実施するために、情報交換を速やかにし、円滑に運営できる組織づくりを行う。
- 「総合的な学習の時間」についての課題
- ・1年生に対し早期からオリエンテーションを充実させる。
 - ・これまで以上に地域社会との連携が必要である。
 - ・意思統一を図るため、更なる教職員の研修が必要である。
 - ・学校独自の評価方法を確立する。
 - ・講師謝金等の予算を確保する。

「実感・納得・本音」にはたらきかける道徳学習

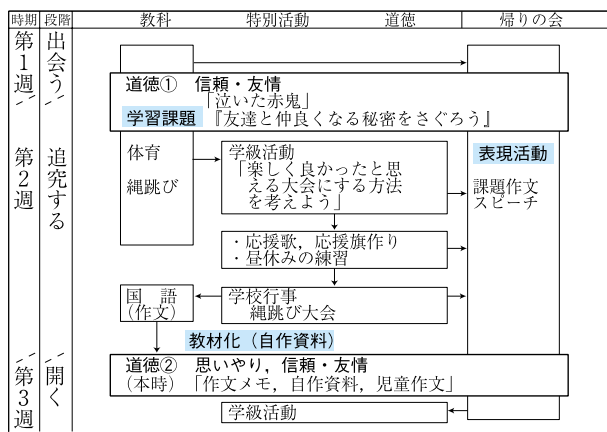


所員 神近 博彦

1 はじめに

ことの善悪や自分自身の生き方について「はっと目が開かれる，なるほどと納得がいく，よしやってみようと意欲が湧いてくる」このように，子どもたちの心が動き，自分自身との出会いのある道徳授業は，どのように行えばよいのでしょうか。それには，たてまえやきれいな事ではなく，子ども自らが自分の実感・本音に問いかけながら，ことの善悪や自分自身の生き方について考えられるようにしていくことが大切になってきます。その一つの方法として，子どもたち自身の意志や判断に基づく行動を促し，その中で感じ，考えたことを道徳の学習に生かしていく，総合単元的な道徳学習があります。特別活動や教科等の学習活動と道徳の時間とを関連させた，総合単元的な道徳学習について紹介します。

2 総合単元的な学習の構想



3 価値意識の継続を図るために

子ども自らが実践する過程で感じ，考えた道徳上の事柄について，道徳の時間で広め，深めます。また，道徳の時間で学んだことが特別活動等の活動場面に生かされるようにします。そのためには，単元全体を通して価値に対する意識の継続を図ることが大切になってきます。そこで，道徳の時間を通して問題意識を焦点化し，高め，単元を通して学習課題を追究していくようにしました。また，特別活動等の活動を通して，道徳的価値に対する子どもの意識を探り，授業に生かしました。

学習課題の設定

道徳の導入段階で，アンケートや体育の感想等を基に話し合い，道徳的価値にかかわって実感の伴った学習課題を設定しました。

表現活動を随時取り入れる

縄跳び大会への取組について観点を示し，感じたこと，考えたことを書くようにしました。心のつばやきを素直に表現するよう援助し，価値に対する意識を探るようにしました。

作文を道徳授業に生かす

縄跳び大会に向けた取組について書いた課題作文や国語の作文等を基に，子どもの心が動いた場面等を取り上げ，教材化しました。

- ・作文をそのまま使いました。
- ・考える場面を焦点化した自作資料を作りました。

4 指導の実際

(1) 第3学年 道徳学習指導案

- ア 主題名「友達と仲良くなるひみつ」
- イ 資料(作文メモ，自作資料，児童作文)



自作資料

なわとびの練習風景です。いくらやっても，うまくとべない人がいます。こんな声が聞こえてきました。

- ① 「早すぎる，ゆっくり回してさ」
「なんしょっと，がんばってさ」
- ② 「もう少しゆっくり回した方がよかね」
「よかよか，がんばって」

ウ ねらい

「友達と仲良くなるために大事なこと」について，自分たちの考えや行ってきたことの良さに気付くことができる。

相手の気持ちを考えることによって互いに理解し，心が通じ合うことに気付き，実践への意欲をもつことができる。

学習活動・主な発問	指導上の留意点
<p>1 学習のめあてを確かめる。</p> <p>友達と仲良くなるには、どんなことが大事だろう。友達と仲良くなるひみつを見つけよう。</p> <p>2 作文メモの見出しカードを基に、友達と仲良くなる方法や大事にしたい気持ちについて話し合う。</p> <p>3 縄跳び練習の場面を基に話し合う。</p> <p>縄跳びを題材にした自作資料</p> <p>「早すぎる、ゆっくり回してさ」「なんしょと、がんばってさ」と言われたとき、どんな気持ちでしょう。</p> <p>「もう少しゆっくり回した方がよかね」「よかよか、がんばって」と言われたとき、どんな気持ちでしょう。</p> <p>同じことを言っているのに、言われた方の気持ちは違いますね。2つの言い方では何が違うのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな気持ちがあるから嬉しくなるのでしょうか。 <p>作文を聞く 児童作文</p> <p>4 友達と仲良くなるために、これからどんなことを大事にしていきたいかを書く。</p> <p>5 友達の考えに感想や意見を書く。</p> <p>6 友達の感想を読んで思ったこと、これからがんばりたいことなどを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して行ってきた活動を振り返り、学習のめあてを確かめる。 友達と仲良くなるために大事だと思った各自の考えを自由に出させる。 縄跳び大会に向けた取組で、してもらって嬉しかったこと、自分が努力したことなど、嬉しかった経験を振り返らせる。 経験を振り返らせ、相手の言い方によって、気持ちが害されたり、がんばろうという気持ちが湧いてくることを感じ取らせる。 同じ言葉でも、相手の気持ちを考えているからこそ気持ちが伝わり、互いに理解し合えることに気付かせる。 友達のがんばる気持ちに心を動かされ、自分もがんばろうと思ったという作文を紹介し、互いに理解し合うこと、気持ちが通じ合うことの喜びを感じ取らせる。 改めて大事だなと思ったこと、これから自分にできそうなこと、がんばりたいことなどの観点を与え、これから自分が大切にしていきたい考えを見つめ直させる。 隣の人の考えの良いところやアドバイスできることを見付けられるよう支援する。 これからどんなことを大事にしていきたいか、友達からのメッセージを読んでどう思ったかを発表させ、良いところを認める。
<p>事後の学習</p>	<p>帰りの会のスピーチ 「仲の良いクラスにするために、みんなでやりたいこと」</p> <p>学級活動（議題） 「みんなで協力して、みんなが楽しめる 出に残る をしよう。みんなで思いを作ろう」</p>

(2) 子どもの反応（ワークシートより）

あんまり人の良いところを見つけていないから、次からは、人の良いところを見つけて、たすけ合うことを大切にしたいなと思いました。たすけ合えばみんな仲良くできると思ったからです。それと、自分の気持ちだけでなく相手の気持ちを考えて仲良くなるようにしたいです。

わるいことをしている友だちには、ちゅういしてやる。あいての気持ちを考えてちゅういしてあげたら、きっと分かってくれると思いました。

5 おわりに

本時では、縄跳び大会に向けた取組の中で考えた感じたりしたことを授業に生かすことに焦点を当てました。縄跳び大会に向けた取組の中から問題場面や道徳的価値に対する子どもの意識を探り、それを生かした資料作りと発問の工夫をしました。これは、指導と評価の一体化を図ることであります。指導者にとっては、それまでの学習を生かし、子どもの本音がどこにあるのか、どのように変わってきているのか、どこに焦点を当てれば子どもの心に深く届くのかを考え、道徳の授業を組むこととなります。そのことによって、子どもたち自身も自分の実感・本音に基づいて考えることができたのではないかと思います。



生徒の意欲を高める社会科選択学習

～ 体験的学習・課題解決学習を通して～

所員 梶山 康正

1 はじめに

来年度から「総合的な学習の時間」がスタートするとともに選択履修の幅が一層拡大され、時数だけでなく、内容についても多様な展開が求められています。これまででも、選択教科は、生徒の個性を生かす教育を推進するために設けられ、その実現に向かって授業時数及び内容が設定されてきました。しかし、選択教科の指導においても、画一的で形式的な教育が行われ、生徒が、社会的事象について、興味・関心を持つことを妨げてきた一面があったように思います。

子どもたちにとって魅力ある、知る喜び（学習の喜び）を味わえる選択履修の学習内容をどのように設定すべきか、それが選択履修をより有効に行っていく上での重要な課題の一つだと言えます。そこで選択履修を含めた社会科学学習を振り返ってみて、生徒たちが目を輝かせて生き生きと学習に取り組んだりやる気になった授業はどのような教材をどのように取り扱ったのかを整理してみました。

活動する

子どもたちは作業をしたり、校外学習をしたり、何かをつくったりといった体験する活動を好みます。生徒の意欲を刺激するのは、活動する場面のある授業のときです。

興味や関心とかかわりがある

自分の興味・関心とかかわりがある内容があるときです。

自分をもっと高めたいと思う

生活する姿や働く姿をイメージできたり、感性に響き、人間としての共感を得ることで、自分をもっと高めたいと思う内容を扱ったときです。

このことから、問題解決型学習や体験型学習を取り入れることは効果的なことだと考えました。

そこで、激しく変化する社会に対応して生きていくことのできる心豊かな人間を育成するために、教科の目標に沿いながら、生徒自身の体験を重視する

ことで、生徒自身が「自ら学ぶ姿勢」を大切にし、すすんで学習に取り組むことのできる「選択社会」を目指した授業について、実践例を紹介します。

2 指導の実際

これまで各教科においても、生徒や地域の実態等を踏まえて、生徒の興味や関心を高めるために多様なコースや課題を設定し、生徒一人一人の個性を生かす取組がなされてきました。この実践例は、体験的・課題解決学習を通して、新学習指導要領の選択履修の在り方に近づくための手立てを探る一試案を提示したものです。今回は、あらかじめ4つのコースを設定し、それらを学習し、体験することで興味・関心を高めさせました。さらに、疑問や課題を持ったコースを1つ選択し、学習計画を立てて、調査を行い、資料を収集し、新聞にまとめさせました。また、各町の史跡調査を行う際に、調査計画の立て方や資料収集の方法など課題追究の仕方を学ばせるための学習をさせました。

【土器づくり：文化祭での展示発表の様子】



実施内容の概略

- ① みそづくりの歴史などはインターネットを利用して調べるとかなりの資料が出てきました。春仕込みのみそでしたので夏休みには食べることができたようです。また、みそを販売することを想定し、原価計算をさせ、販売価格を予想させたり、経済の仕組みについて学習が広がりました。
- ② 勾玉づくりは、参考資料(中学校社会科の授業・

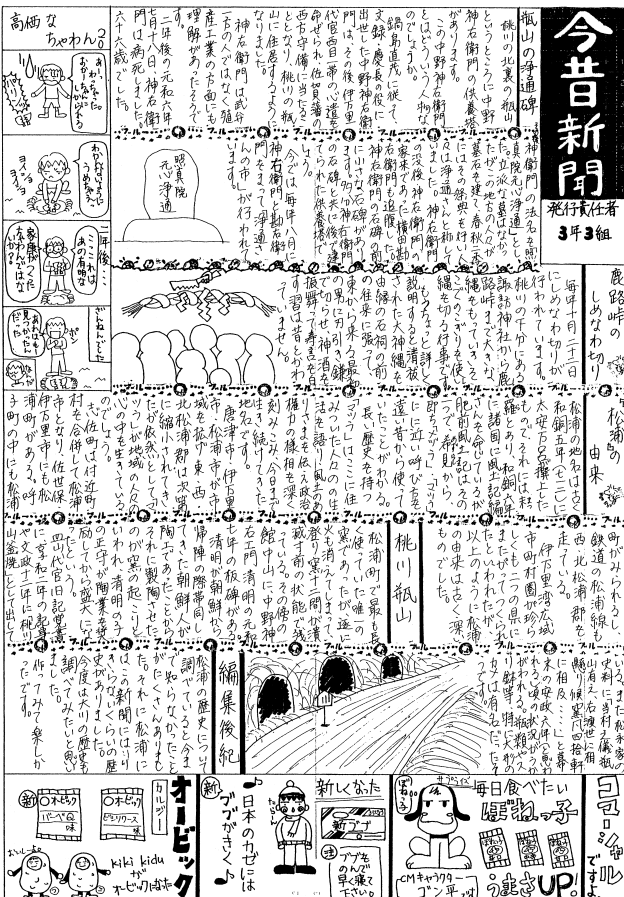
別冊：あゆみ出版)を基に準備をし、実施しました。また、土器づくりは、市販のもの(やけるんだセット650円)を購入し作成させました。毎回すんで学習に取り組みました。

- ③ 史跡探訪は、最も学習させたかったコースです。校区内(大川・松浦町)には史跡がたくさんありますが、残念ながらそれに気付かない生徒が多いのです。教育委員会の文化財担当者に教えていただきながら資料を集め2か所探訪させ、校区内の文化財を調べる活動に広げました。また、この活動を通して、「学び方」についても学ばせ、最後の取組の課題追究学習につなげていきました。

3 ま と め

生徒の興味や関心が持続した1年間でした。体験的学習を通して、意欲を高め、課題を見つけ発展的な学習につながっていったように思います。今後は、新しい選択履修のねらいにさらに近づけるためにガイダンス機能を高め、主体的な選択ができるようにすることや学習課題を設定する際に、学び方を含め、課題の追究意欲をわき起こさせるための工夫が必要だと感じました。

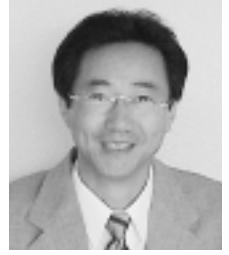
【新聞づくり：生徒作品】



ねらいと年間計画

月	週	学 習 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・各自の個性や能力, 興味, 関心を基に教科を選択させる。 ・学習内容, 目的, 方法等を確認させる。 ・年間計画の説明。 		
4月	①	選択教科のガイダンス ・教科の決定(20名)
	②	選択社会のオリエンテーション1(内容と方法)
	③	選択教科のオリエンテーション2 (年間計画作成と班分け)
<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいて, 4つのコースの学習を行う。 ①みそづくり ②勾玉づくり ③野焼きの土器づくり ④郷土史跡探訪 		
5月	①	みそづくり1 (歴史・作り方・商品の流通)
	②	みそづくり2(班ごとに準備打合せ)
	③	前日(大豆の漬け込み) みそづくり3(みそづくり)
6月	①	みそづくり4(原価計算や販売について 模擬実習)感想
	②	勾玉づくり1(歴史等・作り方)
	③	勾玉づくり2:作成
7月	①	勾玉づくり3:作成
	②	勾玉づくり4:作成
	③	勾玉づくり5:作成と感想
9月	①	郷土学習1:大黒井堰・馬頭の学習
	②	史跡探訪1:大黒井堰
	③	土器について調べる(データベースや図書を利用)
10月	①	土器の作り方について・デザイン
	②	土器づくり1:つくる・乾燥
	③	土器づくり2:焼く
	④	土器づくり3:仕上げと感想
11月	①	郷土学習2:中野仁右衛門供養塔
	②	史跡探訪2:中野仁右衛門供養塔
	③	各町内の史跡について調査計画
12月	①	調べてきた事を各町ごとにまとめる
	②	発表
<ul style="list-style-type: none"> ・4コースの学習からさらに深めていきたいコースを選び, 課題解決の計画を立てる。 ・調査, 研究内容を新聞(B4)にまとめる。 ・新聞づくりについてのオリエンテーション。 		
12月	①	課題学習の計画(4コースから1つ)
1月	①	新聞作成についてのオリエンテーション
	②	課題追究1
	③	課題追究2
2月	①	新聞づくり1
	②	新聞づくり2
	③	新聞づくり3
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート用紙を基に自己評価する。 		
3月	①	まとめと総括

生徒の読みを揺さぶる評論文教材の指導のために ～国語教師のチームワークの中で自らの読む力を磨く～



所員 横尾 明男

1 はじめに

国語教師として現代文教材の指導に魅力を感じ始めるのは、以下のような理由からでしょうか。

現代文（特に評論）

これなら、先輩の先生とも議論ができる。
これなら、生徒だって自分と対等だ。
生徒とも意見を戦わせるような授業がしたい。

ところが、高校で扱う評論文というものは、学識のある著名な大人たちの立派な考えが述べられたものばかりです。普通に教えようとする、趣旨の把握に終始した挙げ句、主張の部分を継ぎ接ぎし、要約しておしまいということになってしまいがちです。なんとかならないでしょうか。

目指したいのは、次のような授業でしょう。

書かれている事柄だけではなく、
論の展開の仕方や筆者という人間、
さらには、読んでいる自分という人間
にまで目を向けさせるような授業。

そのような授業を目指すには、まずは生徒たちが食いついてくる面白い教材を探すことが不可欠です。しかし、これがなかなか見当たりません。

どうすればよいでしょうか。

2 自分が面白いと思える教材を選ぶ

「教科書に載っているから」という安易な発想から抜け出しましょう。まずは、教える自分にとって面白いと思える教材を探すのです。

この教材は、

- ・これまでの教材とこの点で関連しているし、このように展開させていくことができそうだ。
- ・今の生徒たちの身の回りの現実在即しているし、文章の難易度も適当だ。
- ・何よりも、こんな点が生徒たちにとっては新鮮な考え方ではないだろうか。
- ・また、世間の常識というものに対して挑戦的ですからある。
- ・そこで、こんな角度で教材の読みに切り込んでいけそうだ。

……等々と思えてくるのが、「教えようとする自分にとって面白い」ということです。

すると、選択の範囲は限りなく広がっていきます。現実的には（原典が入手できることが前提ですが）いろいろな出版社の教科書教材、模試や入試問題に採られた文章等を探してみることから始めましょう。

ところが、採択している教科書以外から文章を選ぶと、指導書というものがありません。

3 指導書に頼らない勇気と力量を持つ

ここにきて初めて、国語教師としての自分の読みの力量が問われることとなります。そして、ここを乗り越えない限り、目指す授業には到達しません。

指導書に頼らず、当てにせず、自分の読みこそを大切にしましょう。

自力で教材を読み込む作業は、
自分との真剣勝負。

4 国語科のチームワークを築く

自分の読みを、自分だけの偏った読みに陥らせないためには、他の国語教師との読み合わせが必要で、読み合わせの作業の中で、自分の読みの浅さにも気付くでしょうし、異なる読みを説得するための更なる読み込みが必要にもなるでしょう。

自分の読みの誤りを指摘されることは、だれにとっても恥ずかしいことです。だからこそ、自分との真剣勝負なのです。そして、他者の意見を聞き入れる寛容さが求められるのです。もしかしたら、国語教師としての経験年数が増えるにつれて、現代文を敬遠しがちになっていませんか。

若手の教師と現代文でやり合える、
そんな心の若さを持った教師の存在が
チームワークづくりの成否を左右する。

自分の学校には、読み合わせしてくれるような先生がいないからといって、諦めないことです。まずは、1人でも仲間をつくる努力をしましょう。教材を読む力は、試験問題をつくる力にも直結しています。各地域ごとに割り当てられている県下一斉模試等の作問グループに積極的に参加するなど、自分の力を試し、磨き上げる場を自ら求めましょう。

5 教材の実際

昨年度の講座授業で扱った教材の例を、以下に紹介します。

- ・ 教材名 「私にとって都市も自然だ」
- ・ 筆者 日野啓三
- ・ 出典 『都市という新しい自然』読売新聞社
- ・ 対象 致遠館高等学校 1年生

この教材は、第一学習社の教科書等に採られていますが、何よりも、挑戦的とも思える題名に惹かれました。また、これまでの自然環境を論じた文章では、「自然」と「都市」とは対立するものだというのが常識的な構図ですが、そうした常識に真っ向から揺さぶりをかけていく論の展開がなされている点で、生徒にも新鮮な教材として受け入れられるだろうと予想できました。さらに、常識への揺さぶりとともにやや強引とも感じられる論の展開があるために、高校生にでも反論できるのではないかと期待されました。その点で、高校生に必要な「文章を批判的に読む姿勢」を身に付けさせる有効な教材だと思えたのです。

そこで、プリント教材として投げ込むこととし、授業の組み立てを考えました。

第1時

「私にとって 自然だ」と伏せ字をした題名と筆者及び冒頭の2行だけが書かれたプリントを配布する。

- ・ 自分にとっての「自然」「原風景」とはどういうものか自由に書かせる。
- ・ 冒頭の2行に続く論の展開を推測し書かせる。

第2時

推測した内容を整理したプリントを配布する。第1段落（冒頭から26行目）までが書かれたプリントを配布する。

- ・ 各自の推測との相違を確認しつつ、第1段落の読み取りを行う。

第3時

- ・ 第1段落の読みの確認として、題名の伏せ字を埋めさせる。
- ・ 生徒の推測に反した「都市も自然だ」という第1段落の主張に対して、グループをつくって反論を試みさせる。

第4時

- ・ グループで考えた反論を発表させる。
- ・ 読者の反論を想定しつつ、それをさらに否定することで自己の主張へと導くのが、説得型の文章の特徴的な論法であることを教授する。
- ・ 黒板に記された反論に対して、さらにグループで反論を試みさせることで、説得の論法を身に付けさせる。

第5時以降

第2段落以降最後までが書かれたプリントを配布する。

- ・ 自分たちが推測し、試みた反論と第2段落以降の筆者による展開とを比べ合わせながら、読み進めさせる。

プリントで分割しながら生徒に提示していく、という組み立てを可能にしたのは、使用教科書以外の文章を教材として選んだことによります。また、生徒に筆者の論展開を推測させたり、反論させたり、という組み立てにしたのは、この文章の特徴的な展開の仕方に着目したからです。

自分の目にかなった文章なら、
授業の工夫は次々と湧いてくる。

6 終わりに

個人やグループでの考えを何回も書いて提出させる中で、多様な意見を拾い上げることができました。いわゆる「できる生徒」が常識的な反論を試みて逆に筆者の論に絡められがちであるのに比べ、要領を得ずまとまりのないものの中にも本質に迫る（まだ2歩も3歩も手前であるにしても）反論が見受けられました。そこをうまく補って取り上げ、全体に示してやることで、その生徒ばかりではなく、全体の意欲を高めることができました。

今回のような授業展開では、多くの時間数が必要になります。しかし、試験の点数だけでは計れない生徒の関心・意欲の強さや広がり、グループや全体の学習活動の中での発言や貢献度なども学習過程における学力として正当に評価することが求められています。学期に1教材、せめて年に1教材を、そのような学習として組み立てるゆとりと勇気を持つことが必要ではないでしょうか。

国語教師としての若さを失わない秘訣は、
心のどこかに余裕を持ち続けることです。

校内研究

～我が校の取組～

特色ある開かれた学校づくり

「人とのふれあいの中で、子どもが
生き生きと活動する学校をめざして」

- 複数担任制・交流教育・
地域とのかかわりを通して -

佐賀市立勸興小学校 校長 平方 和善

本校は、平成12・13年度に佐賀市教育委員会より委嘱を受け、「教育改革に即した学校運営に係る研究」に取り組んでいる。

新学習指導要領では、教育改革に即し、各学校が特色ある教育・特色ある学校づくりを展開しながら、子どもたちに豊かな人間性や基礎・基本を身に付け、個性を生かし、自ら学び自ら考える〔生きる力〕を培うことをねらっている。

そこで、本校では、「社会の要請」と「児童や地域の実態」、「学校の特色・研究の流れ」から学校教育目標を見直し、「まなびあう子」「ひびきあう子」「ふれあう子」というめざす子ども像を導き出した。そして、この子ども像実現のために学校運営機構・研究組織・教育課程等の改善を図って、教育活動を進めている。

子どもの学びを育てる「まなびあい部」(複数担任制)、豊かな人間性を育てる「ひびきあい部」(交流教育)、自主的・創造的に実践する子どもを育てる「ふれあい部」(地域とのかかわり)が、特色ある学校づくりのための事務等を行う「総務部」、特色ある教育課程をめざす「教務部」と連携を取りながら、子どもたちの〔生きる力〕をはぐくんでいる。



親子ふれあい活動での老人クラブの方との凧づくり

環境にはたらきかける生徒の育成

- 自然環境，社会環境，人的環境の
3つの視点からのアプローチ -

佐賀市立鍋島中学校 校長 田代 美孝

本校では、平成12・13年度の2年間、県教育委員会・市教育委員会の指定を受け、「環境教育」の研究に取り組んでいる。

環境教育によって、持続可能な社会の形成者を育成することは緊要な教育問題である。しかし、環境保全活動が日常生活の利便性及び社会の利潤追求と相容れない性格があることや中学校教育で多様な環境問題の中の何から取り組むべきか明確でないこと等の問題がある。

そこで本校では、環境教育を自然環境・社会環境・人的環境の3つの視点からとらえ、各授業における環境教育の可能性を模索すると共に、緑・ゴミ・人の和に焦点を絞り、全教育活動における環境教育を展開することにした。

鍋島の地域は水生植物の絶滅危惧種を数種産する豊かな自然を持つと共に都市化が進んでいる。こうした中で生徒たちは地域のクリーン活動やアルミ缶回収など地道に取り組んでいる。

このような実態を踏まえ、環境にはたらきかける生徒を育成し、鍋島を愛し、鍋島に生きる幸せを体を通して学ぶ、人間性豊かな生徒を育てていきたいと考える。



コンポスト肥料，上水道の泥，余ったブロックから畑を作る

佐賀県の地衣類

～ 地衣類から学ぶ佐賀の自然 ～

所員 坂井 文明

「地衣類」知っていますか？」

その名の通り、地面を覆う衣のような植物です。古い墓石や森林の樹木をイメージしてください。薄緑色のコケのような植物を目にします。それが、地衣類なのです。

地衣類は、一般的に蘚苔類（コケ植物）と混同してとらえられやすいのですが、地衣類は葉、茎の分化がなく、黄緑色または灰緑色をしています。また、蘚苔類（コケ植物）とは、日当たりのよい比較的乾燥した所に生育することが多い点で違います。地衣類は菌類と藻類とが共生してできた複合生物です。菌糸がその体をつくり、藻類をその中に取り込んでいます。菌類は藻類に住みかかと水分を与え、藻類は自分の生産した炭水化物を菌類に与えて、お互いに緊密な関係を保っているのです。現在、全世界で約1万4000種、日本では約80科92属1200種の地衣類が知られています。

このような地衣類は、意外にも人との関わりは古く、ヨーロッパでは、古代ギリシア時代より羊毛を染める（地衣染め）ための染料として使われてきました。中国やエジプト、フィンランド、スウェーデンなどでは医療薬として用いられてきました。日本においてもイワタケ（*Umbilicaria esculenta*）が食用として利用されたり、ウメノキゴケ（*Parmotrema tinctorum*）の着生した梅や松の枝葉がお正月の生け花に使用されているなど、実は身近な存在なのです。



写真1 イワタケ（*Umbilicaria esculenta*）



写真2 ウメノキゴケ（*Parmotrema tinctorum*）

地衣類は種々の要因（光、水分、pH、大気）により生育が著しく影響されるため、大気汚染の程度だけではなく、環境変化及び時間的経緯を知る上で有効な生物指標ともなります。佐賀県においては、ウメノキゴケをはじめとして多種多産の地衣類を観察できるので、佐賀の自然はまだ豊かだと言えるでしょう。

佐賀県で多く見られるウメノキゴケは、前述の「地衣染め」の原料としても利用できます。リトマス紙は、リトマスゴケ属の地衣成分を利用して作ります。ウメノキゴケの中にもこのリトマスゴケ属と同じ地衣成分を含んでいますので、リトマス紙を作ることができますし、この成分で地衣染めもできるのです。

このように地衣類は、自然の環境を語る植物であり、生活の一部を演出する植物でもあります。

地衣成分は、防虫効果もあり、人の命を救う医療薬ともなります。抗ガン剤、抗HIV剤、院内感染症等への抗菌剤としての応用、美白効果を高める化粧品への応用の可能性も秘めています。

地衣類を見直し、地衣類から佐賀の自然、佐賀の特色を再発見してみたいかがでしよう。



写真3 地衣染め

INFORMATION



平成13年度 教育講演会

- 1 期 日 平成13年11月29日(木)
- 2 場 所 佐賀市文化会館中ホール 時 間 14:00~16:00
- 3 講 師 赤堀 侃司 東京工業大学・教育工学開発センター及び
(あかほりかんじ) 大学院社会理工学研究科教授
日本教育工学会, 日本科学教育学会等, 理事

演 題 「IT時代の学校教育 - 21世紀の授業像をデザインする - 」

学校教育は、これからどのような方向に進むのでしょうか。情報化やグローバル化が急激に進んでいる現在、基礎基本となる教科を中心とする授業を大切にしながらも、さらにベースとなる能力の育成が求められています。それは、社会の変化と子どもたちの変容が急速で、基礎基本となる教科の教え方の工夫だけでは対応しきれなくなったのではないのでしょうか。シャワーのように降り注ぐ情報洪水を受けながら、そのまま放置すれば、自己を見失ってしまう危機感を感じ始めています。しかし学校教育は授業が基本であることは、昔から変わっていません。どう授業をデザインしたら、このような急速に変わり始めた社会や子どもたちに対応できるのでしょうか。この講演では、このことを様々な事例を基に、解説します。

教育研究・教育実践 論文募集及び開催案内

1 募集・結果発表

- (1) 募集期間 平成13年11月19日(月)~平成13年11月27日(火)
- (2) 結果発表 平成14年1月上旬
- (3) 表 彰 教育交流会にて表彰を行います。
校内研究部門 優秀賞6編以内
個人研究部門 優秀賞2編以内 優良賞6編以内
努力賞若干編

教育交流会 - 実践のとびら21 -



2 教育交流会

- (1) 期 日 平成14年2月15日(金)
- (2) 内 容 各分科会ごとに、発表・協議を行います。

教育センターでは、今年度も県内公立学校の先生方に教育研究・教育実践についておおいに語り合っていたりたく、2月15日(金)に「第3回教育交流会 - 実践のとびら21 - 」を開催します。

交流会に先立ち、校内研究や個人またはグループによる研究論文・実践論文を11月下旬に公募しますので、どうぞふるって御応募ください。また、交流会では、入賞論文を発表していただき、お互いの交流を深められればと思っています。皆様の御参加をお待ちしています！

スーパーアドバイザーの先生紹介

今年度より、教育センターにおける指導相談事業の充実を図る目的で、2人の臨床心理士の先生にスーパーアドバイザーとして来ていただいています。

【事業内容】

- ① 学校に出て来られない児童生徒やその保護者へのカウンセリング
- ② 教育センター相談員(教員)のカウンセリングへのアドバイス
- ③ 学校適応指導教室への指導助言

【実施方法】

- ① 原則として、週3回(1回4時間)教育センターで面接・指導を行っています。
面接は予約制になっています。学校を通して、教育センターの方へお申し込みください。



西九州大学
西村喜文先生



佐賀女子短期大学
田口香津子先生

マルチメディア教材データの収集に御協力を!

マルチメディアを使った教材の募集について

マルチメディア教材データベースのデータを募集しています。登録できるマルチメディアデータを御紹介ください。写真やビデオ映像などのホームページ化(HTML化)していないデータでもかまいません。

児童生徒が作るマルチメディアデータ登録について

児童生徒が各教科や「総合的な学習の時間」に作成した作品(ホームページ化したもの)をマルチメディア教材データベースに登録してみませんか。言葉(キーワード)で検索することが可能となります。詳しくは下記までE-mailまたは電話で連絡をお願いします。

連絡先 E-mail: wwwadmin@saga-ed.go.jp
TEL: 0952 62 5211 (内線361)

